

第 83 号

平成28年 9 月 30 日 発行

編集・発行

(一社)新潟県サッカー協会広報委員会



NiFA NEWS

2016希望郷いわて国体 成年男子・女子 少年男子出場!!

成年男子 新潟 VS 島根
10月3日(月) 13:30 花巻市スポーツキャンプむら(人工芝)

成年女子 新潟 VS 茨城
10月2日(日) 13:30 滝沢総合公園陸上競技場

少年男子 新潟 VS 宮城
10月3日(月) 10:00 遠野運動公園陸上競技場

岩手国体出場に向けて

新潟県成年男子選抜チーム監督 有田 一矢



今回、岩手国体に出場するにあたり、たく

さんの皆様にご支援をいただき心より感謝しております。今年度の新潟県成年男子チームは新潟経営大学、新潟医療福祉大学、新潟大学、JAPANESE

カールレツジの4チームからの選抜チームで構成されたチームで第37回北信越国民体育大会(長野県開催)に臨み1回戦石川県成年男子を延長戦の末2対0で勝利、代表決定戦の福井県成年男子も1回戦同様、延長戦の前半追加点を取り2対1で勝利することができました。成年男子におきましては、2015和歌山国体、2016岩手国体と連続出場を果たすことができました。本県代表としてスタッフ選手一丸となりベストを尽くし、より良い結果を残せるように9月27日(火)から約1週間、合同練習を行い岩手国体に臨みたいと思っております。

女子委員会を中心に行ったU-17選抜活動と本国体に向けて

成年女子監督 板垣 雄平

この度、様々な方のご理解とご協力のもと、北信越国体を優勝することができました。そして、選手たちを大々きな怪我もなく無事にチームに送り返せたことが何よりでした。

この数年、新潟県女子委員会を中心に、選手育成に力を入れてきました。その活動が徐々に芽を出し始めてきたことを肌で感じられる成果でした。私がU-17選抜の監督を

北信越国体を終え本大会へ向けて

国体少年男子監督 原 伸洋

過日行われた北信越国体では、初日に福井と対戦し3-1で勝利しました。2日目、本県は試合がありませんでしたが、他県の結果により、3日目の富山戦を前に本大会への出場が決定しました。

取り組んでいただけに残念でした。富山戦では、前線からボールを奪いに来る相手をいなしながらビルドアップし、広くボールを動かして続けながら決定機を作り出すことを目標にしました。一定の成果はありましたが、富山の早生まれの選手に手を焼き、結果は2-2PK3-0での勝利でした。近年、本県のU16



その初年度の国体チームとして、本国体では、強化・育成が一つの形になった新潟県女子サッカーの力を存分に発揮できたらと思っています。今後、ご理解とご協力をお願いしたいと思います。



THE 96th EMPEROR'S CUP 第96回天皇杯全日本サッカー選手権大会

アルビレックス新潟が3回戦を突破しラウンド16進出

第96回天皇杯全日本サッカー選手権大会 県勢成績

【1回戦】		
新潟医療福祉大学 (新潟県代表)	0 - 1	カタール富山 (富山県代表)
・初の出場も善戦むなしく惜敗		
【2回戦】		
アルビレックス新潟 (J1)	5 - 3	関西学院大学 (シード:前年大学覇者)
・ラファエル・シルバの一人舞台(4得点)で大学No.1に勝利		
【3回戦】		
アルビレックス新潟 (J1)	1 - 0	レノファ山口 (J2)
・3回戦の壁を突破、ラウンド16を超え頂点を目指す		

アルビレックス新潟は、天皇杯とリーグ戦が重なる過密日程の中、9月22日デンカビッグスワンスタジアムにレノファ山口FC(J2)を迎え3回戦を戦いました。リーグ戦と異なるフレッシュな陣容でアグレッシブに戦い、途中出場の上崎亮平選手が77分に左足からのゴールで決勝点を奪い勝利しました。過去5度苦しんだ3回戦の壁を突き破り6年ぶりのラウンド16進出を果たしました。この勢いで上位を目指します。なお、新潟県選手権(都道府県代表決定戦)を制覇し新潟県代表として初出場を果たした新潟医療福祉大学サッカー部は富山県代表のカタール富山に健闘むなしく0対1で惜敗しました。

ラウンド16は10月4日に抽選会を開催し対戦カード、会場が決定されます。

全国大会を終えて

エボルプFC監督 佐々木 真裕



この度、8月15日から北海道帯広市で行われた第31回日本サッカー選手権大会にチーム設立5年目にして初めて出場することが出来ました。グループステージでは川崎フロンターレU-15（関東第1代表）、セレッソ大阪西U-15（関西第3代表）、クレフィオ山口FC（中国第3代表）と対戦しました。結果は1勝2敗でグループ3位のワイルドカードによる決勝トーナメント進出最後の1枠を争い、勝ち点、得点、失点が全て並び抽選の結果予選リーグ敗退となりました。

退となりました。全国の強豪との真剣勝負の中で、1点の重みを感じる結果となりました。結果は悔しいものとなりましたが、



日本クラブユースサッカー選手権U-15大会は8月15日〜24日の期間で、北海道帯広市で開催されました。当クラブとしては、3年連続4回目の出場です。昨年、一昨年に続き、グループステージを通過し、ノックアウトステージで1試合で多くの試合を経験することを目指していましたが、北信越、新潟県、長岡市の代表という誇りとプライドを心に戦っていました。

その為のキーマンとして、距離（相手との距離、ボールとの距離など）、タイミング（いつ動き出すのか、いつパスを出すのかなど）、人数（同数、有利、不利など）を、常に頭のなに入れ、それぞれ選手が判断することを求めました。

この大会でのチームコンセプトは「積極的にゴールをめざす」。積極的なプレッシング、ボールを奪いに行くというアプローチに戦い、2試合（vs柏レイソル、vs清水エスパルス、vsソレシオン熊本）では、フロントコートでの積極的なプレッシングで、1stディフェンダーが迫力をもってアプローチに行き、2試合（vs柏レイソル、vs清水エスパルス）では、試合あり、一つのミスや、ポジシオン修正の遅れがゲームの流れを変え、失点に直結してしまいました。

グループステージを通過し、ノックアウトステージで1試合で多くの試合を経験することを目指していましたが、北信越、新潟県、長岡市の代表という誇りとプライドを心に戦っていました。



最後に多くの皆様方にご支援いただき大会に臨めた事を心より感謝申し上げます。大会結果 グループステージ

vs 柏レイソル 1-2
vs 清水エスパルス 0-3
vs ソレシオン熊本 3-4

第31回日本クラブユースサッカー選手権(U-15)大会に出場して

アルビレックス新潟U-15監督 安達 宏道

アルビレックス新潟U-15は、北信越地域代表1位として今大会に参加し、結果はラウンド32で敗退となりました。このチームは5月に開催されたJFAプレミアカップ2016で1勝もできないまま全国大会を終え、次の全国大会（クラブユース選手権）はグループステージをしっかりと突破できることを中期目標として取り組んでいきます。目標は達成でき

シ（中国地域2位）
アルビレックス新潟U-15 3-0
浦和レッズジュニアユース（関東地域10位）
アルビレックス新潟U-15 1-6
ガンバ大阪ジュニアユース（関西地域1位）
※グループステージ2勝1敗で2位通過

川崎フロンターレU-15（関東地域1位）※ラウンド32で敗退

念願の全中出場

第47回全国中学校サッカー大会に出場して

新潟市立山の下中学校サッカー部顧問 小林 正昭

私がサッカー指導者になった30年以上前から、ここ山の下地区はサッカーが盛んな地域と言われ、多くの優秀な選手が輩出されてきました。ただし、勝負というものは難しいもので、県大会や北信越の予選で勝つことができません。今年、新潟県大会初優勝、北信越大会初優勝と階段を上

（北海道代表）
2回戦
新潟市立山の下中 0-1（0-0）
延長0-1（0-0）
高知中（四国代表）



1回戦
新潟市立山の下中 4-0（3-0）
江別市立中央中



天皇杯出場について

新潟医療福祉大学サッカー部監督
佐熊 裕和

私自身が神奈川の桐光学園高校で27年間サッカー部の監督として指導してきました。その中で多くの卒業生を強豪と言われる大学に送り込みました。幾つかの疑問を持っていた事が大学で指導するきっかけの一つになったと思います。



今年に入り成果が徐々に表れた結果として以下の二試合が挙げられます。一つ目は、総理大臣杯1回戦の対東海大学。2対3で負けましたが内容的には互角以上の勝負が出来た。特に完全に崩しての得点は選手達も自信になったと考えています。二つ目は、天皇杯1回戦の対富山大学。PK戦の末(5-6)で初戦を突破することができなかつた。

守備の課題として、2つ挙げられる。1つは、ボールを奪う判断を共有しコンバクトにした中で運動して奪うこと。もう1つは、相手のロングボールに、チャレンジと対し、中盤のバリエーションを徹底し、中盤のボールを支配すること。素早い攻守の切り替えとプレッシャーの中で、球際の厳しさを守に連続して関わり続ける運動量とプレッシャーの強さを追求していく必要があると感じた。

総理大臣杯に出場して

新潟経営大学サッカー部監督
杉山 学

8月6日より大阪府堺市J-GREENで行われた第40回総理大臣杯全日本大学サッカートーナメントに出場した。本学サッカー部は、東海地区第一代表の中京大学と対戦し、(前半0-0・後半1-1延長戦0-0)PK戦の末(5-6)で初戦を突破することができなかつた。守備の課題として、2つ挙げられる。1つは、ボールを奪う判断を共有しコンバクトにした中で運動して奪うこと。もう1つは、相手のロングボールに、チャレンジと対し、中盤のバリエーションを徹底し、中盤のボールを支配すること。素早い攻守の切り替えとプレッシャーの中で、球際の厳しさを守に連続して関わり続ける運動量とプレッシャーの強さを追求していく必要があると感じた。



全日本ユースフットサルに参加して

帝京長岡高校サッカー部監督
古沢 徹

3月に行われた第3回全日本ユース(U-18)フットサル大会において優勝することができました。このような素晴らしい大会に参加させて頂き、大会関係者を始め、応援していただいた方々に感謝申し上げます。今大会で3年連続3回目の出場となりました。大会自体の勝ち上がりは、第1戦目vs白樺学園高校7-10。第2戦目vs吉賀高校12-10。第3戦目vsF

4年前桐光学園をプレミアリーグに昇格させ、全国選手権で3位になり、その後中国のプロリーグの監督を経験し、縁あって新潟医療福祉大学に来れる事になりました。高校の教員としての監督・海外でのプロ監督を経験できた事や、全国の素晴らしい指導者の方々に教えてもらった事が、現在の指導者としてのベースになっていると思います。

新潟のトップチームでコーチをしていた元日本代表の茶野氏をコーチとして招へい出来た。また部長の秋山先生が大学側とのパイプ役となり密接な関係が築けている点も大きいと考えています。

内容がゲームで出た問題点を改善するためのメニューが中心で「全体の中でどの場面か」「何を意識させるのか」を細かく指導しています。その為スタフ間で全体の大きなピクチャーを意識したトレーニングの構築と提示の徹底を図る事が重要になってきます。

天皇杯全日本サッカー選手権大会の試合運営について
事業委員長 渡邊 晃

天皇杯全日本サッカー選手権大会の試合運営について
事業委員長 渡邊 晃

8月4日から9日まで静岡清水で行われた全日本通サッカー大会に新潟県代表として出場してきました。一回戦優勝候補である東京都代表八王子拓真高等学校と対戦し、前半0対1と善戦するも後半3点を追加され0対4で敗戦いたしました。八王子拓真は順調に勝ち進み優勝を手にしました。初戦からしっかりとトレーニングされたチームと対戦し、選手、顧問共々貴重なゲーム経験を積むことができたし、宿泊を伴う遠征経験の無い選手達においては楽しく、ほろ苦い全国大会でありました。謝罪・感謝であります。昨年7月までは、部員0名でありました。初めてサッカー部に入る選手、どこかで所属してもう一度やり直す選手、そんな選手の背景には、多種多様な環境と人生があります。決して単細胞な価値観の元では計れない彼らの可能性と共に不安

私自身が神奈川の桐光学園高校で27年間サッカー部の監督として指導してきました。その中で多くの卒業生を強豪と言われる大学に送り込みました。幾つかの疑問を持っていた事が大学で指導するきっかけの一つになったと思います。

新潟のトップチームでコーチをしていた元日本代表の茶野氏をコーチとして招へい出来た。また部長の秋山先生が大学側とのパイプ役となり密接な関係が築けている点も大きいと考えています。

内容がゲームで出た問題点を改善するためのメニューが中心で「全体の中でどの場面か」「何を意識させるのか」を細かく指導しています。その為スタフ間で全体の大きなピクチャーを意識したトレーニングの構築と提示の徹底を図る事が重要になってきます。

天皇杯全日本サッカー選手権大会の試合運営について
事業委員長 渡邊 晃

天皇杯全日本サッカー選手権大会の試合運営について
事業委員長 渡邊 晃

8月4日から9日まで静岡清水で行われた全日本通サッカー大会に新潟県代表として出場してきました。一回戦優勝候補である東京都代表八王子拓真高等学校と対戦し、前半0対1と善戦するも後半3点を追加され0対4で敗戦いたしました。八王子拓真は順調に勝ち進み優勝を手にしました。初戦からしっかりとトレーニングされたチームと対戦し、選手、顧問共々貴重なゲーム経験を積むことができたし、宿泊を伴う遠征経験の無い選手達においては楽しく、ほろ苦い全国大会でありました。謝罪・感謝であります。昨年7月までは、部員0名でありました。初めてサッカー部に入る選手、どこかで所属してもう一度やり直す選手、そんな選手の背景には、多種多様な環境と人生があります。決して単細胞な価値観の元では計れない彼らの可能性と共に不安

皇后杯全日本女子 サッカー選手権大会に向けて

JAPANサッカーカレッジレディース監督
板垣 雄平



今年度で6年連続6回目を迎えるが、難しいシーズンの中、今年度の出場権を獲得できたのは、チームにとつて非常に価値のあるものだと思います。最後に、いつも声援をいただいているサポーターの皆さま、心から感謝申し上げます。この感謝の結果で恩返し致します。

状況の中で、チームが一つの目標に対して真摯に向き合えたこの時間は、素晴らしいものでした。出場機会の少ない選手が出場して結果を出し、全員で勝ち取ったものになりました。この素晴らしい時間を今後の活動に繋げていくことが重要です。「JSCCLらしさ」を全国の舞台で披露できるように、準備していきます。

皇后杯本戦へ向けて

新潟医療福祉大学女子サッカー部監督
奥山 達之



第38回皇后杯全日本女子サッカー選手権大会に出場する権利を得ることができた。北信越サッカー協会をはじめとして、協力をいただいている長野県サッカー協会、新潟県サッカー協会、各サッカー関係者、本大会の開催に協力していただき、新潟県代表として粘り強く戦っていきたく思います。今後ともよろしくお願ひ申し上げます。

第38回皇后杯全日本女子サッカー選手権大会に出場する権利を得ることができた。北信越サッカー協会をはじめとして、協力をいただいている長野県サッカー協会、新潟県サッカー協会、各サッカー関係者、本大会の開催に協力していただき、新潟県代表として粘り強く戦っていきたく思います。今後ともよろしくお願ひ申し上げます。

NiFA パラ・サッカー フェスティバル 2016

事務局長 石附 秀一



9月25日(日)新潟聖籠スポーツセンター(アルビレックス)にて、主催(一社)新潟県サッカー協会、協力新潟県障害者スポーツ協会、新潟県ブラインドサッカー協会、知的障害者サッカークラブ、ハットトリック、C P (脳性まひ) サッカーチーム、パラボックス、JAPANサッカーフェスティバルによる試合形式メニュー、パラボックスサポーターによるトリックVSパラボックスの交流戦を行いました。

障がい者サッカーの普及イベントの初の試みで、どうなるのかが期待と不安がありました。参加された皆様、笑顔で楽しく行えてい

たことです。「だれもがサッカーの楽しさに触れられるように、だれもが心からサッカーを楽しむように」を目的としていたもので、準備などスムーズに進まなかったのが開催されました。内容は、ブライインドサッカー体験、アルビレックス新潟スクールコーチによるサッカー教室、ハットトリックサポーターによるトリックVSパラボックスの交流戦を行いました。

第13回全日本女子 フットサル選手権大会北信越大会を終えて

ALoggar2005監督 齋藤 大樹

ALoggar2005も成績が悪く、とても不甲斐ない結果に終わりました。目標の全国大会に出場することは叶いませんでした。感想としては、個人・チームともにまだまだ改善することは沢山の練習など理由は山ほどあると思っております。

ハットトリック、パラボックス、ブライインドサッカー協会の皆様、特別教室を行ったアルビレックス新潟様、会場提供していただきました。新潟県は他県に比べて女子フットサルの普及が遅れをとっていることも要因の一つだと思います。他県はフットサルに力を入れているチームが各県複数あり、新潟県はフットサルに力を入れているチームが他県に比べて少ないというのが現状です。近場で切磋琢磨し合えるのはとても大切なことだと考えております。

今年度新潟県は開催の為、2チームという参加枠がありました。残念ながら1チームのみの参加となりました。新潟県からはFC Jewellが参戦しました。各県ともレベルアップしている中で北信越強豪チームの胸を借り、チームワークの良さ、新潟らしさを全面に出し悔いのない試合を楽しんで欲しいと思っております。生涯スポーツとして楽しめる姿を大勢の方々から観戦して頂きますようお願ひ申し上げます。

第28回全国レディース サッカー大会北信越大会

女子委員長 佐野 裕子

10月1日・2日、グランド新潟サッカースタジアムにて開催されます。今年度新潟県は開催の為、2チームという参加枠がありました。残念ながら1チームのみの参加となりました。新潟県からはFC Jewellが参戦しました。各県ともレベルアップしている中で北信越強豪チームの胸を借り、チームワークの良さ、新潟らしさを全面に出し悔いのない試合を楽しんで欲しいと思っております。生涯スポーツとして楽しめる姿を大勢の方々から観戦して頂きますようお願ひ申し上げます。



今年度新潟県は開催の為、2チームという参加枠がありました。残念ながら1チームのみの参加となりました。新潟県からはFC Jewellが参戦しました。各県ともレベルアップしている中で北信越強豪チームの胸を借り、チームワークの良さ、新潟らしさを全面に出し悔いのない試合を楽しんで欲しいと思っております。生涯スポーツとして楽しめる姿を大勢の方々から観戦して頂きますようお願ひ申し上げます。

フットサルリーグにも参戦させていただいており、ALoggar2005はそこで経験値を上げていくことはもちろんですが、その経験したことを県に反映させていくことを一つの使命でもあると思っております。北信越大会、北信越リーグで経験したこととはもちろん、女子フットサルの普及に

上越地区便り

女子上越地区委員長 川原 寿夫

今回の上越地区便りは、夏休み最後の週は、8月7日の夜に「上越なでしこ」さん、お子さんのプレーする姿を観てほしいという思い、ベンチ入りした選手は全員ゲームに出場させる事というレギュレーションを設定しましたが、今年は妙高カップが琵琶湖カップの北信越予選(参加チームから2チームを琵琶湖カップに推薦、特に問題なければ1・2位のチームでしようか)を兼ねた大会になり、大会主催側と参加チームの、大会に対する意味合いにずれが出てしまい、皆様に参加していただき、皆様に参加選手全員がもつと純粋にサッカーを満喫できるフェスティバルにしたいと考えています。

続きまして、妙高カップですが、例年行われていたガールズエイトが開催する事が出来なくなり、県内の女子の大会を減らしたくないという事で設けました妙高カップも早3回目となり、上越地区として



今年度新潟県は開催の為、2チームという参加枠がありました。残念ながら1チームのみの参加となりました。新潟県からはFC Jewellが参戦しました。各県ともレベルアップしている中で北信越強豪チームの胸を借り、チームワークの良さ、新潟らしさを全面に出し悔いのない試合を楽しんで欲しいと思っております。生涯スポーツとして楽しめる姿を大勢の方々から観戦して頂きますようお願ひ申し上げます。

第26回バーモントカップ大会に

出場して

エル・オウロ監督 丸山 正紀



8月12日～14日の3日間。東京都で開催された。東京で開催された。第26回バーモントカップ全国大会に魚沼柏崎地区トレセ...

手中に収めたかと思われた試合を、残り10秒で追いつかれ勝利を逃がしてしまい、悔しい体験もしました。

近年新潟県代表の戦績は、予選リーグ突破常連、ベスト8、ベスト4と素晴らしい成績を残しております...

勝トーナメントには進めませんでした。初戦は優位に進めていた試合をものにならず。

第二戦目は持ち味を発揮し勝ち点を取りました。2日目の決勝トーナメントを賭けた第三戦は...

第8回クルコ新潟県サッカー

フェスティバルU-8

笑顔あふれるサッカーファミリーの集い

第4種委員会 事務局 石川 正記

9月11日曜日、聖籠スポーツセンターに県内8ブロックから3チームずつ合計24チームの2年生以下の選手約300名が勢揃いした。

県サッカーフェスティバルU-8の開会式である。長く暑い夏もそろそろ落ち着いてきた。熱中症の心配の少ないスポーツに適した気候になってきた。

新潟県サッカー協会のサポート。県内の指導者の方によるあたたかい激励。魚沼柏崎地区のトレセスタッフの皆様。魚沼柏崎地区のチームの選手、代表監督、

のブロックに分け、各チームが均等に3試合ずつを行う。一応、4チームリーグ戦で順位をつけ、1位のチームには優秀チーム賞として賞状が授与されるが、チャンピオンを決めるのではなく、参加チームが均等にゲームを楽しむことをねらいとしている。

突然の豪雨により、選手の状態を考慮して、途中で中止となった。今年は、暑すぎず寒くもなくちょうど良い天候に恵まれた。試合形式は、24チームを4チームずつ6つの3試合目と回りをみる意識も見られるようになり、短い1日の中にも選手の成長を感じられた。

デンカビッグスワンでナイトゲーム!

県民共済カップ第14回キッズサッカー大会

第4種委員会 事務局 石川 正記

昨年まで「しんきんカップ」として行われたこの大会は、14年前「JA共済カップ」としてスタートした。この大会のねらいは、小学4年生以下の児童へのサッカー競技の普及とU-10年代の選手層の掘り起こしだ。

台になり、昨年度まで5500人程度を維持している。これは約12万人の県内小学生の約5%にあたる。未登録の小学生プレイヤーがこの相当数いるとすると、県内小学生の約10%がサッカーに取り組んでいる計算になる。



平成以降の20数年、少子化の影響を受け、県内児童数は減少の一途を辿っている。平成15(2003)年度のサッカー協会登録の小学生人数は4200人程度だが、翌年度から5000人

NiFA マスタープラン 2007 スタート (一社) 新潟県サッカー協会は、英語名 Niigata Football Association の略称を従来の NFA から NiFA に変更し、これを「ニファ」と読みます。

スマイル&チャレンジ 当協会にご支援いただいている法人各社 TONY テレビ新潟 BSN新潟放送 新潟日報 東北電力 総合生協 新潟県信用基金協会

東日本大震災 復興支援 がんばろうニッポン! サッカーファミリーのチカラをひとつに!

第20回国際ユースサッカー in 新潟

U-17メキシコ代表の優勝で幕を閉じる



第20回 国際ユースサッカー in 新潟を終えて
U-17新潟県選抜監督 青木 宗

今回は国際ユースサッカー in 新潟に参加をさせていただき、選手・スタッフ共に非常に貴重な経験をさせていただきました。また、本大会が第20回と節目を迎えられたことを喜ぶと同時に記念すべき年に参加ができたことを大変光栄に思います。これも県サッカー協会をはじめ、大会運営に関わって下さった多くの方々のご協力のおかげであると感謝しています。この場を借りて、感謝申し上げます。

「ハードワーク」攻守にわたり積極的に走り続けられること。「トランジション」攻撃の切り替えを素早くスムーズに行えること。

「コミュニケーション」ピッチ内外問わず互いの意思疎通がはかれること。これらの3つをチームのベースとして、今回の県選抜チームは「優勝」という目標を掲げて大会に臨みました。チームの核となったのは昨年度の和歌山国体に出場した選手となりましたが、今まで選抜に残れずに悔しい思いをしてきた選手たちも努力の成果と大会への意欲を示してくれました。短い準備期間ではありましたが、コンパクトな守備とサイド攻撃を確認して本番を迎えました。

最後にありますが、県選抜の活動にご協力いただいた全ての皆様、心よりお礼申し上げます。本大会にありがとうございました。

第20回国際ユースサッカー in 新潟 大会結果

	U-17 メキシコ代表	U-17 日本代表	U-17 クロアチア代表	U-17 新潟選抜	勝点	得点	失点	点差	順位
U-17 メキシコ代表	-	0 ● 2	5 ○ 1	3 ○ 1	6	8	4	4	1
U-17 日本代表	2 ○ 0	-	1 △ 1	1 ● 2	4	4	3	1	2
U-17 クロアチア代表	1 ● 5	1 △ 1	-	2 ○ 1	4	4	7	-3	3
U-17 新潟選抜	1 ● 3	2 ○ 1	1 ● 2	-	3	4	6	-2	4



聖籠町 スポアイランド聖籠 7月16日(土) 17:00～ U-17 日本代表 VS U-17 メキシコ代表
7月17日(日) 17:00～ U-17 日本代表 VS U-17 クロアチア代表

新発田市 五十公野公園陸上競技場 7月16日(土) 17:00～ U-17 新潟選抜 VS U-17 クロアチア代表
7月17日(日) 17:00～ U-17 新潟選抜 VS U-17 メキシコ代表

新潟市 デンカビッグスワンスタジアム 7月18日(月) 15:50～ U-17 新潟選抜 VS U-17 日本代表
7月18日(月) 18:30～ U-17 クロアチア代表 VS U-17 メキシコ代表

力の高い選手に対応しきれない部分があり、失点を重ねてしまいました。しかし勇気を持ってチャレンジした成果が得点という形で表れました。2連敗で自信を失ってしまいましたが、選手たちはナショナルチームに対しても一定の手応えを感じてくれていました。そして最終戦となった日本代表との試合。「このままでは終われない。」チームの思いは1つでした。粘り強くハードワークを続け、素早い攻撃から得点を奪い取った。チームとしての成長が最後に勝利という結果につながったと思います。

大会の最終成績は4位と目標を達成することは出来ませんでした。しかし選手は今後に向けて手応えと課題を得てくれました。また、ピッチで戦う彼らの姿が新潟のサッカー少年たちに夢や希望を与え、育成年代から関わって下さった指導者の方々にも新潟県選抜の成長をお見せできたのであれば責任を果たせたと思います。

20回を迎えた国際ユースサッカー in 新潟は、U-17日本代表・U-17メキシコ代表・U-17クロアチア代表・U-17新潟選抜を迎え、新潟市・新発田市・聖籠町の3市町を会場に実施されました。前年大会での選手の熱中症による途中棄権を踏まえ、万全の体制をもち運営にあたりました。大会は、来年の世界大会に向けてこの年代の強化を推し進める海外勢を日本勢が迎える機会となりました。

国際ユースサッカー in 新潟の関連イベントとして、聖籠町・新発田市・新潟市でサッカー教室を開催しました。講師に福田正博・名良橋晃の元日本代表両氏を招きアルビレックス新潟の全面協力を得て開催しました。両講師とアルビレックス新潟スクールスタッフの熱意と情熱と愛情が溢れた指導は参加した子どもたちに限らず見守って下さった指導者や保護者の方に感動を与えたものでした。各地域のサッカー選手に限りなくサッカーを初めて経験する子どもたちまで幅広い層の子どもたちを引き付けた教室は、サッカースポーツの可能性を更に拡大させるものでした。参加者の期待に応えるため、今後も告知・広報を強化しこの事業を継続してまいります。

国際ユースサッカー in 新潟 報告書

国際ユースサッカー教室



◆第38回皇后杯 全日本女子サッカー選手権大会 2回戦のご案内

以下のとおり皇后杯2回戦を開催いたします。

アルビレックス新潟レディースをはじめ新潟医療福祉大学、ジャパンサッカーカレッジ女子選手の活躍にご声援をお願いいたします。

開催日：2016年10月29日(土)、30日(日)
両日各2試合 計4試合実施

会場：新発田市五十公野公園陸上競技場 (グリーンスタジアムしばた)

※入場無料

※組合せ、試合時間等の詳細は後日決定

昨年、決勝戦で惜敗したアルビレックス新潟レディースの優勝を目指した戦いが始まります。他の県内女子チームは上位を目指し1回戦を戦います。

1回戦 10月22、23日 全国4会場

◆NiFAパラ・サッカー フェスティバル2016

県サッカー協会では、多くの方々のご支援とご理解をいただき障がい者サッカーの普及発展の第一歩としてフェスティバルを開催いたしました。当日は、100名を超える皆様にご来場いただき、観戦及び参加いただきました。県協会では今後も障がい者サッカーの普及活動を行ってまいります。

日程：2016年9月25日(日)
9時50分～13時00分

会場：新潟聖籠スポーツセンター アルビレッジ